

キタバあやたホール・
くすのかホール
今後のあり方(案)について

令和8年1月



河内長野市役所

1. これまでの経過

キタバあやたホールとくすのかホールは、それぞれ平成12年と平成16年に建築されており、建築から20年以上が経過し、入浴施設を中心に様々な設備の劣化が著しく、大規模改修の時期が近づいています。

令和7年2月の福祉教育常任委員協議会において、

- ・市民ニーズに基づいた福祉サービスを提供するため、地域福祉センターの今後の在り方について議論を行い、制度の再設計や、必要に応じてセンターの改修や整理を行う。
- ・錦溪苑や同施設内のコミュニティセンターの機能との連携や統合も併せて検討を行う。

という方向性案を報告した後、アンケートやワークショップなどにより市民意見徴取を行い、施設の今後のあり方について検討を行ってきました。

令和6年度

R 7 / 2 月

福祉教育常任委員協議会にて「地域福祉センターの今後のあり方検討」について報告

R 7 / 3 月

各関係団体へ報告

令和7年度

R 7 / 4 月

利用者アンケート・オンラインアンケート

R 7 / 6 月～8 月

地域ワークショップ（あやた・くすのか各2回ずつ）

R 7 / 11 月～12 月

各関係団体へ施設の方向性案を提示

R 8 / 1 月

地域福祉推進協議会にて本案件の報告

2. 現在の位置付け

■地域福祉センター

高齢者の社会参加及び生きがい活動の促進を図るために設置する施設

【利用対象者】

市内在住の下記の人が対象

- ・おおむね60歳以上の人とその介護者
- ・障がい者とその介護者
- ・母子家庭の母子

■コミュニティセンター

市民相互の連帯感及び信頼感を深め、住みよいまちづくりを自主的に展開する
コミュニティ活動の促進を図るために設置する施設

(自治会等で公共・公益的な目的で事業を主催し実施する場合は、使用料免除)

キタバあやたホールとくすのかホールは、「地域福祉センター」と「コミュニティセンター」を併設した施設です。

3. 新たな位置付け

第5次地域福祉計画においては、

つながり・支えあいがひろがる河内長野
～「ほっとかへん。」をめざしたまちづくり～

を基本理念として、人々の「つながり」の充実を図ることとしています。

また、アンケートや地域ワークショップでは両地域とも多世代共生の居場所を求める声が多くあがりました。

これらを踏まえ、「地域福祉センター」「コミュニティセンター」の位置付けを改め、両施設が地域のつながりや支え合いの機運を高め、誰もが活躍する場となるよう、つながる拠点(仮称)地域共生センターへのリニューアルを目指します。

リニューアルにより、新たに策定される第6次総合計画(基本構想)のビジョンである「人のつながりも、大きな安心に。」「支えて、支えられて、活かし合って。」の実現に向け、取り組みを進めていきます。

つながる拠点(仮称)地域共生センター)へのリニューアルにあたっては、4つのコンセプトに基づいた施設改修を行います。

4つのコンセプト

①多世代が集い、新たな出会いが生まれる場

こどもの居場所や高齢者のサロンなど年代別の居場所ではなく、
多世代がごちゃまぜに集まれる場所
これまで関わりなかった人が出会い、新たな交流が生まれる場所

②だれもが安心して自分らしく過ごせる場

誰がいつ来ても良い、何をして過ごしてても良い「ごちゃまぜ」の場所
人とのかかわりが苦手な人も、安心して過ごせる場所

③小さな支え合いが生まれる場

こどもからeスポーツやスマホについて教えてもらったり、
高齢者が赤ちゃんを見守っている間にママたちがホッと一息つけるなど、
小さくて温かい支え合いが生まれる場所

④介護予防や健康維持ができる場

いつまでもいきいきと地域で暮らせるよう、体を動かしたり、
地域とつながることができる場所

(仮称)地域共生センターのイメージ



赤ちゃんから高齢者までみんながごちゃまぜで楽しめるスペースを設置
(キタバあやたホールにおいては、旧浴室スペースを「(仮称)ごちゃまぜ
ホール」へ転換)

このスペースでは、多くの住民が参加し、つながりが広がるようなソフト
事業を併せて展開

(案)

- ・赤ちゃんスペース
- ・みまもりカフェスペース
- ・キッズスペース(黒板、ボルダリングなど)
- ・介護予防体操や介護予防プチ講座ができるスペース(プロジェクター、スクリーン)
- ・eスポーツ(モニターなど)
- ・掲示板(地域の情報交換用)
- ・みんなで育てる家庭菜園



また、健康増進室では負荷の軽い運動ができる
ようウォーキングマシン、エアロバイク、ステッ
パーなどを設置

※イラストは生成AIにより生成。

4. 浴室のあり方について

■浴室利用者数の状況

平成20年度と令和6年度の年間利用者数を比較すると、半分以下となっています。

<キタバあやたホール>

H20年度25,776人(1日あたり88人)→R6年度10,770人(1日あたり38人)

<くすのかホール>

H20年度の27,216人(1日あたり93人)→R6年度9,907人(1日あたり34人)

■浴室維持に必要となる経費

浴室維持にかかる市の経費は、キタバあやたホールで年間約1,500万円、くすのかホールで年間約1,200万円となっています(令和6年度決算ベース)

(浴室利用一人あたりに要する経費は、キタバあやたホールで約1,500円、くすのかホールで約1,200円)

また、浴室機能の更新にあたっては、キタバあやたホールのボイラー約2,000万円、くすのかホールの給湯器等約400万円が必要となります。

上記の状況に加えて、アンケートや地域ワークショップで施設に多世代共生の居場所を求める声が多かったことなどを踏まえ、両施設における浴室は施設改修のタイミングで廃止し、市内公共施設における浴室機能については市立福祉センター(キタバ錦溪苑)に引き継ぐものとしします。

5. 使用料及び開館時間について

■使用料改定について

娯楽室及び広間(※1)について、地域福祉センターとして利用する際は無料、コミュニティセンターとして利用する際は有料となっています。(仮称)地域共生センターとしてリニューアルするにあたり、利用者の属性によらない一律の使用料とします。

キタバあやたホールにおける広間については、自分らしく過ごせるフリースペースとしての活用を目指し、予約不要にするとともに、使用料についても無料とします。

両施設ともに娯楽室の使用料については有料としますが、コミュニティセンターにおける現在の使用料よりも値下げするとともに、カラオケ設備一式の使用料についても値下げを行うことで、受益者負担の平準化を図ります。

(※1)広間はキタバあやたホールのみ

■開館時間について

現センターで導入済みの夜間閉館制度(※2)は引き続き実施します。

また、現センターの利用状況も踏まえ、開館時間を現行の22時までから変更し、21時までとすることを検討します。

夜間(※3)閉館日の設定及び終日休館日の変更についても検討します。

(※2)利用日3開館日前までに施設予約がない場合、17時以降を閉館する制度

(※3)17時以降

6. 今後のスケジュール

キタバあやたホールについては建築から25年以上経過しており改修に急を要することから、キタバあやたホールの改修を先行して実施するものとします。

くすのかホールについては地域で議論を深めた後、改修内容を決定します。

なお、新たな施設が「地域住民が主体となった居場所」になるよう、令和8年度以降も地域ワークショップを行うなど、地域住民同士で議論する場を作ります。

R8/3月

パブリックコメント実施
地域ワークショップ(キタバあやたのみ)

R8/4月以降

キタバあやたホール改修にかかる調査・設計の実施
くすのかホールにおける改修内容の検討
地域ワークショップ(両地域)

R9/4月以降

キタバあやたホールにおける改修工事の実施
くすのかホール改修にかかる調査・設計の実施

R10/4月頃(予定)

新センター条例施行
キタバあやたホールリニューアルオープン

(参考1)アンケート結果について

地域福祉センターに関するオンラインアンケート及び利用者アンケートを令和7年4月に実施しました。

○キタバあやたホール利用者向けアンケート

【調査方法】キタバあやたホールにアンケート用紙を配架し実施

【調査期間】令和7年4月15日～4月30日

【回収状況】有効回答数149件

○くすのかホール利用者向けアンケート

【調査方法】くすのかホールにアンケート用紙を配架し実施

【調査期間】令和7年4月15日～4月30日

【回収状況】有効回答数184件

○オンラインアンケート

【調査方法】アンケートフォーム(LoGoフォーム)により実施

【調査期間】令和7年4月15日～4月30日

【回収状況】有効回答数197件

アンケート結果(抜粋)

■地域福祉センターに求められると思う機能

＜あやた利用者＞	＜くすのか利用者＞	＜オンライン＞
①趣味など生きがいの場の機能 49.0%	①趣味など生きがいの場の機能 49.5%	①地域交流の場の機能 60.4%
②地域交流の場の機能 40.3%	②地域交流の場の機能 41.3%	②介護予防や健康の維持機能 54.8%
③介護予防や健康の維持機能 22.8%	③介護予防や健康の維持機能 30.4%	③趣味など生きがいの場の機能 45.7%
④くつろぎの場 20.8%	④社会参加の場 20.7%	④社会参加の場 43.1%

■地域福祉センターに新たな機能を追加するとしたら

＜あやた利用者＞	＜くすのか利用者＞	＜オンライン＞
①認知症予防活動の場 36.2%	①趣味の活動ができる場 40.2%	①介護予防活動の場 55.3%
②介護予防活動の場 32.2%	②会話・交流できるスペース 34.2%	②認知症予防活動の場 45.7%
③趣味の活動ができる場 22.1%	③介護予防活動の場 33.2%	③地域食堂や子ども食堂などの場 42.6%
④会話・交流できるスペース 21.5%	④認知症予防活動の場 32.1%	④趣味の活動ができる場 37.6%

■風呂を利用する主な理由は

＜あやた利用者＞	＜くすのか利用者＞
①リラクゼーションのため 35.7%	①健康維持のため 39.7%
②体の衛生を保つため 28.6%	②体の衛生を保つため 24.7%
③健康維持のため 23.2%	③リラクゼーションのため 21.9%
④社交の場として 5.4%	④社交の場として 9.6%
⑤家の風呂が故障しているため 3.6%	⑤家の風呂が故障しているため 2.7%
⑥家に風呂がないため 3.6%	⑥家に風呂がないため 1.4%

■その他意見

- ・「あいっく」のような子育て支援の場が欲しい。
- ・60歳以上の方だけでなく、皆が利用できるようにしてほしい。
- ・高齢者だけでなく子育て期間中の人も利用できるようにしてほしい。
- ・落語など、楽しめるイベントを開催してほしい。
- ・バスの運営をお願いしたい。

(参考2)ワークショップ結果について

令和7年6月～8月にかけて、各地域福祉センターで2回ずつ地域ワークショップを開催しました。施設利用者・自治会・まちづくり協議会・自治会・民生委員・福祉委員・学生など、幅広い地域住民の方々にご参加いただきました。

ワークショップでは、河内長野市に「あったらいいな」「こんな施設が欲しい」「ここが変われば…」を出し合い、グループごとに整理しました。

■ワークショップの開催状況

令和7年6月14日(土)	キタバあやたホールワークショップ(第1回)	参加者23名
令和7年7月26日(土)	くすのかホールワークショップ(第1回)	参加者27名
令和7年8月9日(土)	キタバあやたホールワークショップ(第2回)	参加者24名
令和7年8月23日(土)	くすのかホールワークショップ(第2回)	参加者13名



ワークショップで出された意見(抜粋)

キタバあやたホール・くすのかホールのどちらも、ワークショップで出された意見の中で一番多かったのが、「居場所」がほしいというものでした。気軽に集まれる場所、誰かに出会える場所など、使い方を限定しないフリースペースを望む意見が多数ありました。

<あやた意見抜粋>

- 時間を気にせずに話ができる場所
- 集まれる場所（居場所）
- 自由に利用できるフリースペース
- 出会いの場
- いろいろできる場所

<くすのか意見抜粋>

- 集まって食事のとれる場所
- 友達と騒げる、ゲームができる場所
- 飲食できる、休憩できる場所
- 行けばケータイパソコン教えてくれる場所
- 無料の団欒室

こどもを対象とした事業を望む意見も多くみられ、こどもから大人まで幅広く利用できる施設が求められています。

<あやた意見抜粋>

- だれでも利用できる子どもの施設
- いつでも利用できる子ども施設
- 子育ての場所＝施設

<くすのか意見抜粋>

- 子どもたちの居場所
- 現役世代の集まれる場所
- 子どもが安全に遊べる施設

(参考3)キタバあやたホールの改修(案)

健康増進室

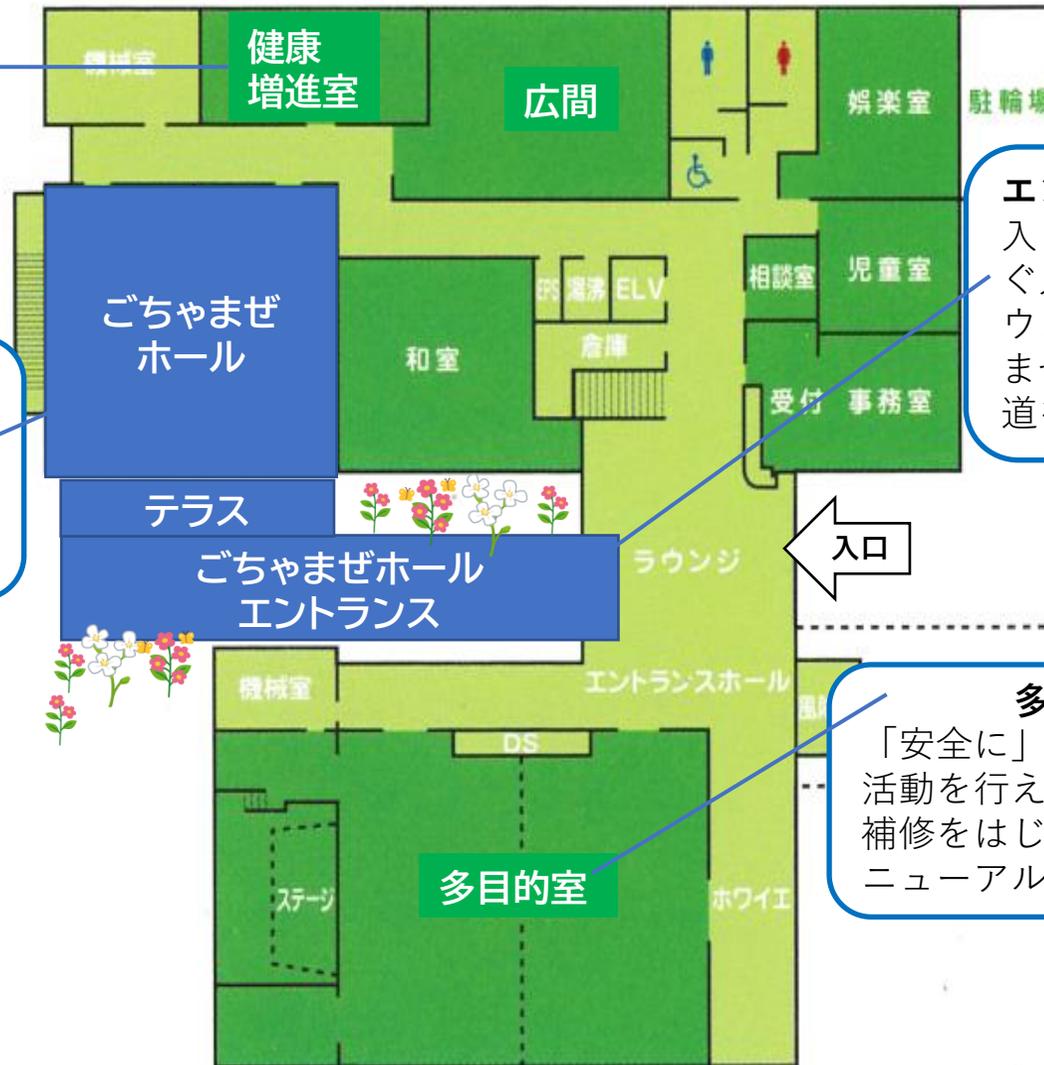
負荷の軽い運動ができるよう、ウォーキングマシン・エアロバイク・ステッパーなどを設置

(仮称) ごちゃまぜホール

旧浴室スペースは、赤ちゃんから高齢者までみんながごちゃまぜで楽しめるオープンスペースへ転換



※イラストは生成AIにより生成。



エントランス

入り口からまっすぐ入れるよう、ラウンジからごちゃまぜホールまでの道を設置

多目的室

「安全に」「楽しく」地域活動を行えるよう、床面の補修をはじめとしたリニューアルを実施

■これまでの経緯

キタバあやたホールとくすのかホールは、それぞれ平成12年と平成16年に建築されており、建築から20年以上が経過し、入浴施設を中心に様々な設備の劣化が著しく、大規模改修の時期が近づいています。市ではアンケートやワークショップなどにより市民意見徴取を行い、施設の今後のあり方について検討を行ってきました。

【市民意見徴取のための取り組み】

- 令和7年4月 利用者向けアンケート及びオンラインアンケートの実施
- 令和7年6月14日 小山田地域福祉センターの未来を考える会（第1回）
- 令和7年7月26日 清見台地域福祉センターの未来を考える会（第1回）
- 令和7年8月9日 小山田地域福祉センターの未来を考える会（第2回）
- 令和7年8月23日 清見台地域福祉センターの未来を考える会（第2回）



アンケート結果は市HPから確認ができます

(<https://www.city.kawachinagano.lg.jp/soshiki/4/113454.html>)

■現在の位置付け

キタバあやたホールとくすのかホールは、「地域福祉センター」と「コミュニティセンター」を併設した施設です。

【地域福祉センターとは】

高齢者の社会参加及び生きがい活動の促進を図るために設置する施設

【コミュニティセンターとは】

市民相互の連帯感及び信頼感を深め、住みよいまちづくりを自主的に展開するコミュニティ活動の促進を図るために設置する施設

■新たな位置付け及びコンセプト

新たに策定される第6次総合計画（基本構想）のビジョンである「人のつながりも、大きな安心に。」「支えて、支えられて、活かし合って。」の実現に向け、「地域福祉センター」「コミュニティセンター」の位置付けを改め、「つながる拠点（（仮称）地域共生センター）」へのリニューアルを目指します。

【位置付け】

つながりや支え合いの機運を高め、誰もが活躍できる地域づくりの促進を図るために設置する施設

【4つのコンセプト】

- ①多世代が集い、新たな出会いが生まれる場
- ②だれもが安心して自分らしく過ごせる場
- ③小さな支え合いが生まれる場
- ④介護予防や健康維持ができる場

■浴室のあり方について

浴室利用者数の減少や、浴室維持に必要となる経費が多額であること、アンケートや地域ワークショップで施設に多世代共生の居場所を求める声が多かったことなどを踏まえ、両施設における浴室は施設改修のタイミングで廃止し、市内公共施設における浴室機能については市立福祉センター（キタバ錦溪苑）に引き継ぐものとします。

【浴室利用者数の状況】

- <キタバあやたホール>
平成20年度25,776人（1日あたり88人）→令和6年度10,770人（1日あたり38人）
- <くすのかホール>
平成20年度の27,216人（1日あたり93人）→令和6年度9,907人（1日あたり34人）

【浴室維持に必要となる経費（令和6年度決算ベース）】

- <キタバあやたホール>年間約1,500万円（浴室利用一人あたり約1,500円）
- <くすのかホール>年間約1,200万円（浴室利用一人あたり約1,200円）

■使用料及び開館時間について

現在は地域福祉センターとして利用する場合とコミュニティセンターとして利用する場合で異なる使用料となっています。（仮称）地域共生センターとしてリニューアルするにあたり、利用者の属性によらない一律の使用料とします。

また、現センターの利用状況も踏まえ、開館時間・開館日の見直しも検討します（例：閉館時間を22時から21時に短縮）。

■今後の取り組みについて

キタバあやたホールについては建築から25年以上経過しており改修に急を要することから、キタバあやたホールの改修を先行して実施するものとします。くすのかホールについては地域で議論を深めた後、改修内容を決定します。なお、新たな施設が「地域住民が主体となった居場所」になるよう、令和8年度以降も地域ワークショップを行うなど、地域住民同士で議論する場を作ります。

地域共生センターのイメージ（※イラストは生成AIにより生成）



赤ちゃんから高齢者までみんながごちゃまぜで楽しめる施設へのリニューアルを目指します。

（赤ちゃんスペース、みまもりカフェスペース、キッズスペース、介護予防体操や介護予防プチ講座ができるスペース、eスポーツができるスペース、地域の情報交換ができるスペース等の設置を想定）

キタバあやたホールにおいては、旧浴室スペースを「（仮称）ごちゃまぜホール」へと転換し、オープンスペースを創出する予定です。